MITSUBISHI

ファンコイルユニット・ファンコンベクター

ＬＶ－ＷＲＥ－M1,W1
ＶW－ＷＲＥ－M1,W1
VW－WE2(－W)

取扱・据付工事説明書
（お客様用・販売店，工事店様用）

床置形（冷暖兼用）	ＬＶ－150WRE－M1,W1
	ＬＶ－250WRE－M1,W1
	ＬＶ－300WRE－M1,W1
	ＬＶ－400WRE－M1,W1
	ＬＶ－600WRE－M1,W1
床置形（暖房専用）	VW－250WRE－M1,W1
	VW－350WRE－M1,W1
	VW－500WRE－M1,W1
	VW－700WRE－M1,W1
	VW－200WE2(－W)
	VW－300WE2(－W)
	VW－400WE2(－W)

・この製品の性能･機能を十分に発揮させ、安全を確保するために正しい据付工事と取扱いが必要です。据付けおよびご使用の前に必ずこの「説明書」をお読みください。説明書内で、安全のために必ず守っていただく項目を⚠警告、⚠注意の形で記載しました。
・お読みになったあとは大切に保管してください。据付けおよびご使用中に分からないことや不都合が生じたときにお役に立ちます。
・お客様ご自身では据付けないで下さい。安全や機能の確保ができません。
・取扱いに不明な点がございましたら操作を中止しお客様相談窓口へ、また保守契約の場合はサービス会社にお尋ねください。
・受注仕様品については製品の細部がこの説明書と若干異なる場合があります。

もくじ　　ページ

1．安全のために必ず守ること ････････ 1
　据付けになる前に ････････ 1
　お使いになる前に ････････ 2
　運転するときは ････････ 2
2．各部の名称とはたらき ････････ 4
　ＬＶシリーズ ････････ 4
　ＶWシリーズ ････････ 4
3．据付けの仕方 ････････ 5
　据付工事 ････････ 5
　配管工事 ････････ 7
　電気工事 ････････ 8
　使用水質・循環水量のご注意 ････････ 9
4．運転の仕方 ････････ 10
　上手なご使用の仕方 ････････ 12
　故障を防ぐためのお願い ････････ 13
5．お手入れの仕方 ････････ 14
6．サービスをお申しつけの前に ････････ 15
　次の場合は故障ではありません ････････ 15
7．アフターサービス ････････ 16

1. 安全のために必ず守ること

・据付けおよびご使用の前に必ずこの「安全のために必ず守ること」をよくお読みいただき、正しくご使用ください。
・ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
表示と意味は次のようになっています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があるもの。

・お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
・お使いになる方が代わる場合は、必ず本書をお渡しください。

・本文中に使われる“図記号”の意味は次の通りです。

⃠	絶対に行わないでください。
❗	必ず指示に従い行ってください。
⏚	必ずアース工事を行ってください。
⚠	感電注意を促します。
⚠	回転物への接触防止を促します。
⃠	分解禁止を促します。
⃠	接触禁止を促します。
⃠	水場での使用禁止を促します。

据付けになる前に

(特に販売店または専門業者の方へのお願いとなります。)

⚠警 告

お客さま自身で据付けはしない。

・据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼してください。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。

定格電圧以外では使用しない。

・表示以外の電圧で使用すると、火災、感電の原因になります。

所定の据付工事を行う。

・台風などの強風、地震に備え所定の据付工事を行ってください。
据付工事に不備があると、転倒あるいは落下などによる事故の原因になります。

電源工事は資格のある方が確実に施工する。

・電源工事は電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する基準」「内線規程」およびこの説明書に従って施工し、電源接続は必ず専用回路を使用してください。
電源回路の容量不足や施工に不備があると感電、火災の原因になります。
・電源配線は所定のケーブルを使用し張力がかからないように工事を行ってください。
断線したり、発熱、発火および感電の原因になります。

据付けは説明書に従う。

・据付工事は本説明書に従って確実に行ってください。
据付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。

⚠注 意

ドレン工事は確実に施工する。

・ドレン工事は本据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
工事が不確実な場合は、屋内に浸水し家財などを濡らす原因になります。

ガス漏れのおそれがある場所には設置しない。

・可燃ガスの漏れるおそれのある場所には設置しないでください。
万一ガスが溜まると、発火の原因になります。

場所によっては漏電ブレーカーを設置する。

・漏電ブレーカーが取付けられていないと感電の原因になります。

悪水質の水を流さない。

・水質基準に適合した冷水、温水を使用してください。
（水質基準）
日本冷凍空調工業会基準「冷凍空調機器用水質ガイドライン」(JRA－GL－02)
水質の悪化は、コイル(熱交換器)などに腐食を生じ、水漏れの原因になります。

お使いになる前に

⚠警　告

据付け状態を確認する。

・製品本体が堅固な場所に水平に固定されていることを確認してください。
固定が不十分な場合は、本体の落下・転倒などによりケガの原因になります。

製品を改造しない。

・製品本体を改造しないでください。
火災や感電の原因になります。

発熱器具を近くに置かないでください。

・樹脂部分が溶けたり、火災の原因になります。

当社指定外の部品を使用しない。

・運転スイッチ、加湿器等の別売部品は、必ず当社指定の製品を使用してください。部品に不備があると火災・感電・ケガ・水漏れの原因になります。
また、取付けは専門業者に依頼してください。
ご自分で取付けをされ不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。

製品の上に乗らないでください。

・ユニットの上に乗らないでください。不安定な状態で製品が転倒したり、製品から落下することでケガの原因になります。

⚠注　意

アースを確認する。

・アースを行ってください。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
アース線が不完全な場合は、感電の原因になります。

運転するときは

⚠警　告

吹出口、吸込口に指や棒を入れない。

・空気の吹出口や吸込口に指や棒を入れないでください。
内部でファンが高速回転していますのでケガの原因になります。

こげ臭いときは運転を停止する。

・異臭時（こげ臭いなど）は運転を停止して、電源を切り、お買い上げの販売店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。
異常のまま運転を続けると感電、火災の原因になります。

電源コードは破損したり、加工しないでください。

・電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用、他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。感電や発熱、火災の原因になります。
また、コードは重いものを乗せたり、過熱したり、引っ張ったりすると破損の原因になります。

長時間冷風を体に当てない。

・長時間冷風を体に当て冷やし過ぎないでください。
体調悪化・健康障害の原因になります。

修理はご相談窓口に。

・修理はお買い上げの販売店、工事店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。
修理に不備があると感電、火災の原因になります。

電源プラグの抜き差しで運転・停止させない。

・電源プラグの抜き差しで、ユニットの運転や停止をしないでください。
感電や火災の原因になります。
・電源プラグはほこりが付着していないか確認し、がたつきのないように刃の根元まで確実に差し込んでください。
ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、感電や火災の原因になります。

前板を外したままファンを運転しない。

・前板を外したままファンを運転しないでください。
高速運転するファンモーターに手が触れてケガをするおそれがあります。

運転するときは

⚠注 意

濡れた手でスイッチを操作しない。

・感電の原因になります。

風が当たる場所に燃焼器具を置かない。

・空調機の風が直接当たる場所に燃焼器具を置かないでください。
燃焼器具の不完全燃焼の原因になります。

動植物に風が当たる場所に設置しない。

・動植物に風が直接当たる場所に設置しないでください。
動植物に悪影響を及ぼす原因になります。

掃除をするときは停止する。

・掃除をするときは必ずスイッチを「停止」にし、電源を切ってください。
内部でファンが高速回転していますのでケガの原因になります。

掃除をするときは手袋をはめる。

・空調機の内部や、フィルター、コイル（熱交換器）部分などの清掃を行うときは、必ず手袋（軍手などの厚手のもの）をはめて行ってください。
素手で行うと見えないところでケガをするおそれがあります。

電気部品は水に浸さない。

・モーター、コンデンサー、スイッチなど電気関係部品は水に浸さないでください。
故障、感電などの原因になります。

水洗いしない。

・ユニットを水洗いしないでください。
感電などの原因になります。

長期間使用しないときは電源をきる。

・長期間ご使用にならない場合は、安全のため電源を切ってください。
ホコリが溜まって発熱、発火の原因になります。

こまめに換気をする。

・燃焼器具と一緒に運転するときは、こまめに換気してください。
換気が不十分な場合、酸素不足の原因になります。

特殊用途に使用しない。

・他の目的に使用しないでください。食品・動植物・精密機器・美術品の保存等特殊用途には使用しないでください。
品質低下の原因になります。

殺虫剤・可燃性スプレーなどを吹きつけない。

・殺虫剤・可燃性スプレーなどを製品の近くに置いたり直接吹きかけないでください。
火災、変形の原因になります。

ベンジン・シンナーなどの溶剤を使用しない。

・お手入れはベンジン、シンナーなどの溶剤を使用しないでください。
本体にキズ・割れが発生し、ケガや感電の原因になります。

水のかかりやすい場所で使用しない。

・水のかかりやすい場所で使用しないでください。
火災、感電の原因になります。

吹出口に触れない。

・運転中や停止直後は空気の吹出口に手を触れないでください。
運転状態により吹出口が高温になり、火傷の原因になります。

定期的に点検する。

・無人で長時間運転するときは、定期的に点検してください。
火災、水漏れの原因になります。

水の入った容器を乗せないでください。

・ユニットの上に花瓶等の水の入った容器を乗せないでください。
ユニット内部に浸水して電気絶縁が劣化し、感電の原因になります。

電源コードを引っ張らない。

・電源プラグを抜くときは、プラグを持ってください。コードを持って抜くと芯線の一部が断線し、発熱・発火の原因になります。

2. 各部の名称とはたらき

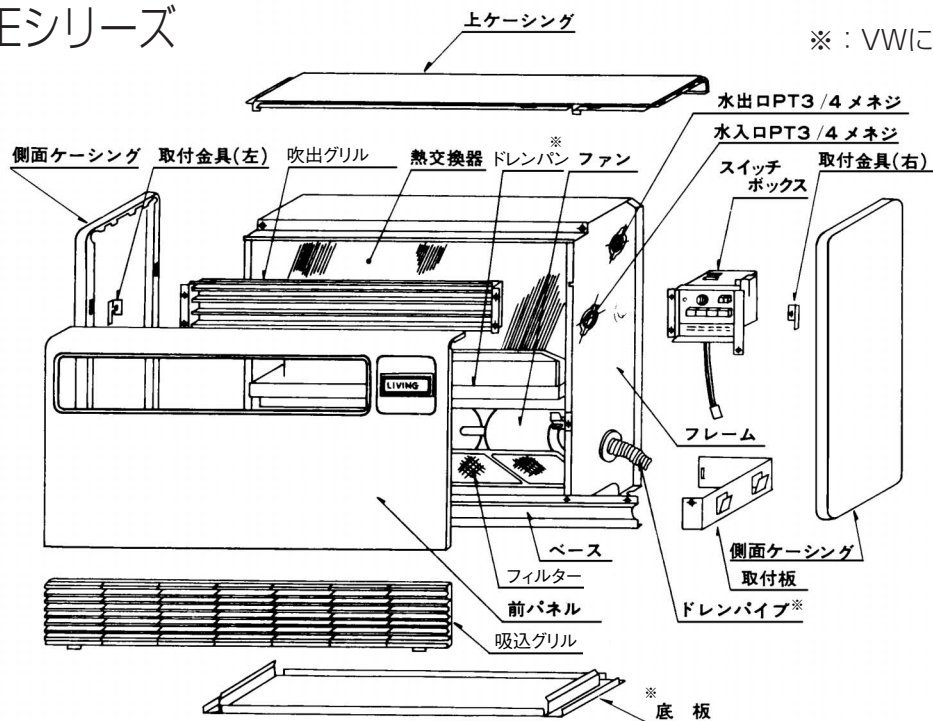
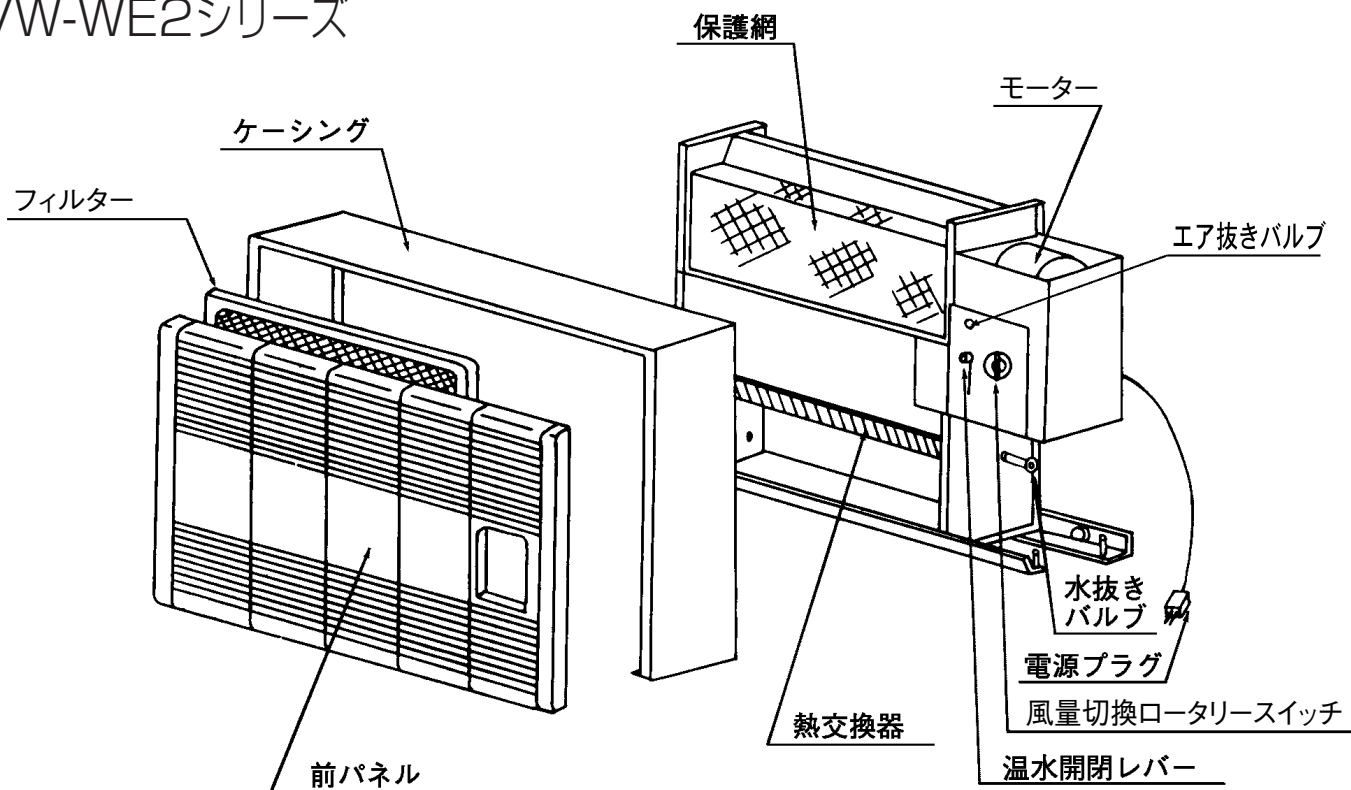
●吹出口（吹出グリル）	室内に空気を吹き出します。
●吸込口（吸込グリル）	室内の空気を吸い込みます。
●フィルター	吸い込んだ空気のホコリやゴミを取除きます。
●熱交換器（コイル）	冷水または温水を流して吸い込んだ空気を冷房または暖房します。
●エア抜きバルブ	熱交換器のエアを手動により抜きます。 VWはドレンパンがありませんので、操作するときは、別途容器等で受けて流下しないよう注意してください。
●ファン	回転し空気を送ります。
●モーター	ファンを回転させます。
●ドレンパン	熱交換器で空気を冷やしたときに出る水（ドレン水）を受けます。

LV, VW-WREシリーズ

※：VWには付いておりません。

上ケーシング
水出口PT3/4メネジ
水入口PT3/4メネジ
側面ケーシング
取付金具(左)
吹出グリル
熱交換器
※ドレンパン
ファン
スイッチボックス
取付金具(右)
LIVING
フレーム
側面ケーシング
取付板
ベース
フィルター
前パネル
ドレンパイプ※
吸込グリル
※底　板

VW-WE2シリーズ

保護網
モーター
ケーシング
フィルター
エア抜きバルブ
水抜きバルブ
電源プラグ
風量切換ロータリースイッチ
熱交換器
温水開閉レバー
前パネル

3. 据付けの仕方

据付工事

必ず水平に取付けてください。

ユニットは必ず水平に取付けてください。水平に据付けませんと、ドレン排水に支障をきたし水漏れの原因となりますのでご注意ください。

⚠警 告

据付けは、重量に十分耐える所に確実に行ってください。
強度が不足している場合は、本体の落下・転倒によりケガの原因になります。

水平で丈夫な場所に据付けてください。

LV-WRE-M1,W1･VW-WRE-M1,W1 シリーズ

●据付位置

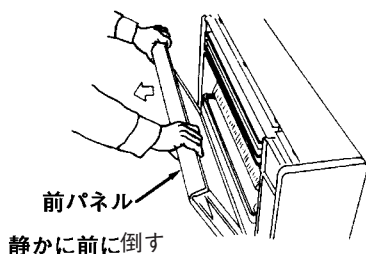
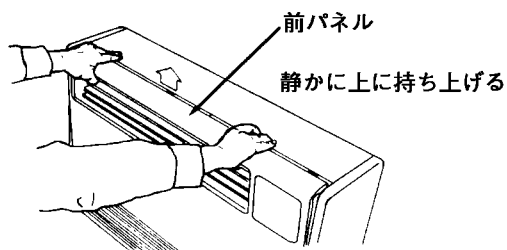
次の条件にあった位置を選んでください。

・冷温風が部屋全体に循環する位置
・外気に面している窓の下
・出入口からなるべく離れた位置
・配管工事のしやすい位置
・しっかりした床面の上

【ご注意】
壁面などに埋め込んでご使用の場合は本体の両側に1.5cm以上、上側に3cm以上の空間を確保してください。

●前パネル・ケーシングの外し方

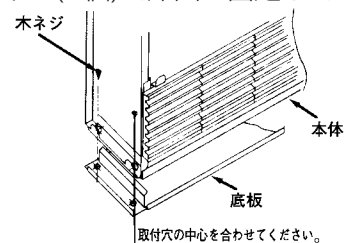
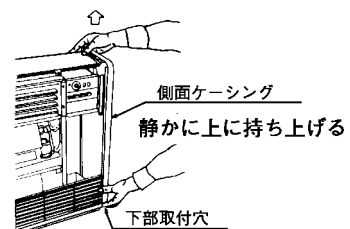
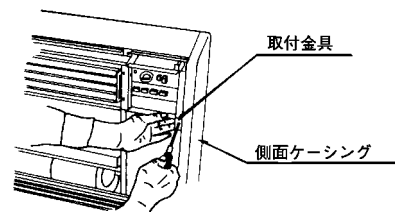
風量調節スイッチが「切」になっていることを確認してからケーシングを外してください。

・**前パネル**　吹出口のワク上部に両手をかけ、静かに上に持ち上げてください。

取付ける時は前パネル下部の穴に本体のツメを挿入し逆の手順で行ってください。

●床面固定方法

しっかりした床面へ水平に据付けてください。
傾けたり、畳の上などに直接据付けないでください。

【固定のしかた】

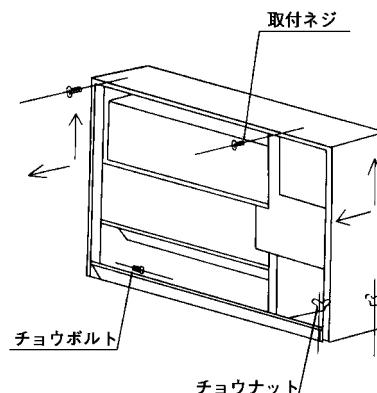
1．前パネル・両側面ケーシングを外してください。
2．付属の底板の上に本体を置き、取付穴を合わせて付属の木ネジ(4個)で床面に固定してください。

・**側面ケーシング**　取付ネジを外して静かに上に持ち上げてください。

取付ける時は側面ケーシング下部取付穴に本体のツメを挿入し逆の手順で行ってください。

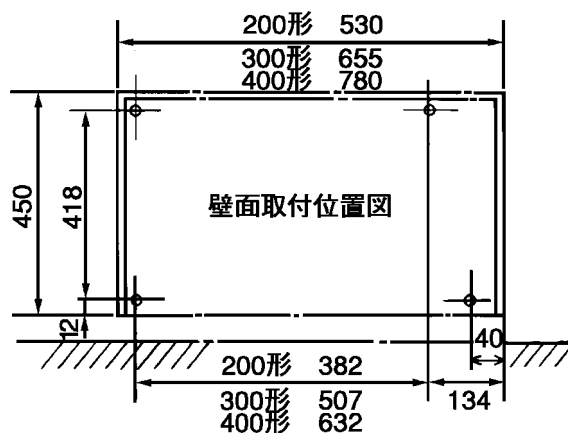
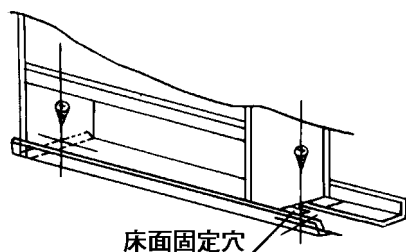
【ご注意】
側面ケーシングの取付金具を紛失しないようにご注意ください。また取付ネジを外す時はドライバーの先などでケガなどしないように十分注意してください。

●前パネル・ケーシングの外し方

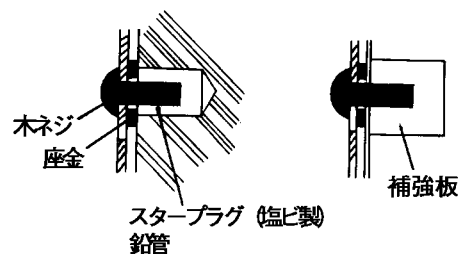
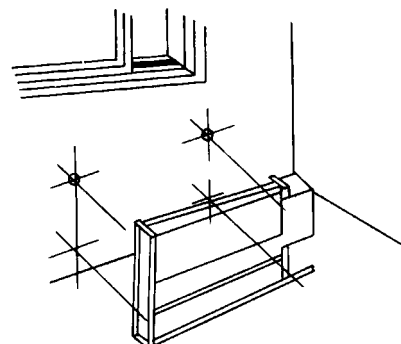
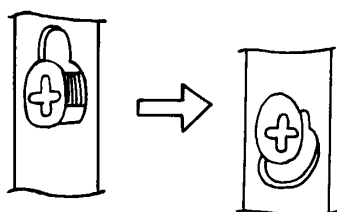
風量調節スイッチが「切」になっていることを確認してからケーシングを外してください。

・**前パネル**　上部を手前に引いて持ち上げると外れます。

・**ケーシング**　正面上部の取付ネジ(2個)、下部左部のチョウボルト(1個)、下部右部のチョウナット(2個)を外して、上方へ持ち上げ、手前に引くと外れます。

●床面固定方法

前パネル・ケーシングを取外したのち、付属の木ネジ(2個)で床面に固定してください。

●壁面固定方法

1. 前パネル・ケーシングを取外したのち、付属の木ネジ、座金(各2個)で壁面に固定してください。
2. 取付位置図に従い製品本体が水平になるよう下穴を4カ所あけ、上部 2 カ所に木ネジを止めてください。
3. 製品を引っ掛けて下部 2 カ所を止めてください。

・**壁がコンクリートの場合**
コンクリートドリルにて穴をあけ、鉛管または塩ビ管(スタープラグ)等を打ち込み、木ネジで取付けてください。

・**壁がベニヤの場合**
木ネジを取付ける各所にあらかじめ補強板等を壁の中に入れ、木ネジにて取付けてください。

梱包材の処理は確実に行ってください。

梱包材に釘などの金属あるいは、木片など使用していますので放置しますとさし傷などのケガをするおそれがあります。

配管工事

ドレン配管工事は確実に施工してください。

LV-WRE-M1,W1・VW-WRE-M1,W1　シリーズ

●配管例

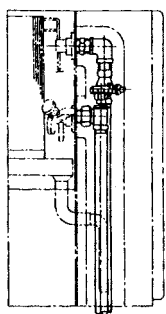
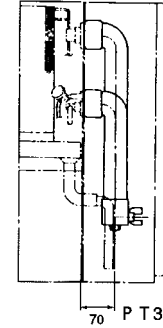
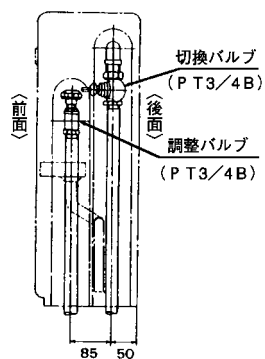
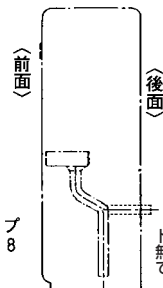
配管口は下側が冷温水入口、上側が冷温水出口です。〈VW-WRE-M1,W1シリーズは温水のみ〉

寸法は冷温水入口・出口ともＰＴ３／４メネジです。<LV-WREの場合>(VW-WREの場合 PT1/2メネジです。)

・冷温水入口・出口には必ずバルブを取付けてください。お手入れのときなど便利です。

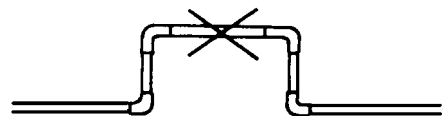
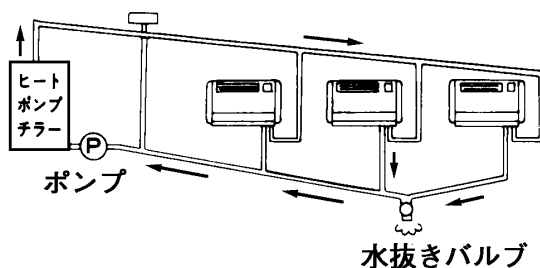
・バルブ・配管などは完全に防露工事をしてください。特に露が保温材に浸透しないように端末処理を完全にしてください。〈LV-WRE-M1,W1シリーズのみ〉

・ドレン配管にビニールホースを使用する場合はホースがつぶれないようにしてください。

・ドレンパイプは無理矢理本体後方に曲げないでください。
　無理に曲げますと、ドレンパイプが亀裂するおそれがあります。

ガス管使用の場合

フレキシブルチューブをご使用の場合
【ご注意】　最高使用圧力は0.98MPaです。

●エア抜きについて

・エア抜きは配管部の一番高い所に取付けてください。
　シスターンタンクの逃し管と兼ねることもできます。

・配管勾配はできるだけ大きくし、最低でも1／200にしてください。

配管の途中に凸部をつくらないでください。

●ポンプ揚程について

・ポンプ揚程はユニットの台数により選定してください。

・ポンプ揚程大の場合は、ポンプ吐出側の最も近い所にバルブを取付けて圧力を調節してください。
　ポンプ吸込側で大気圧以上であることが必要です。

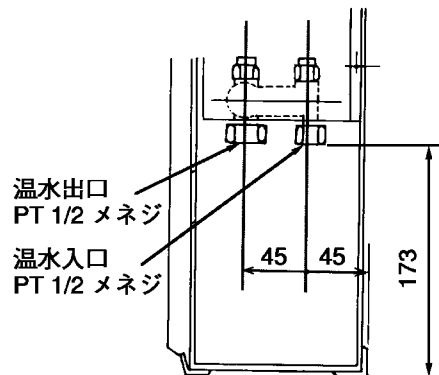
●水抜きについて

・水抜きバルブは配管部の一番低い所へ取付けて配管内全部の水が１カ所で抜けるようにしてください。

VW-WE2(-W) シリーズ

●配管の仕方

・配管口は後側が温水入口、前側が温水出口となっています。

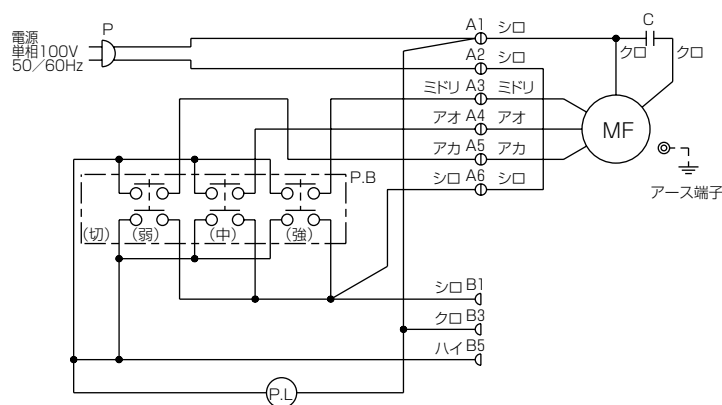
・配管口の寸法は温水入口、温水出口共にＰＴ１／2メネジとなっています。

電気工事

⚠警　告　電気工事は電気工事士の資格のある方が施工し、必ず専用回路を使用してください。
施工不備、容量不足があると感電、火災の原因になります。

アースを施工ください。

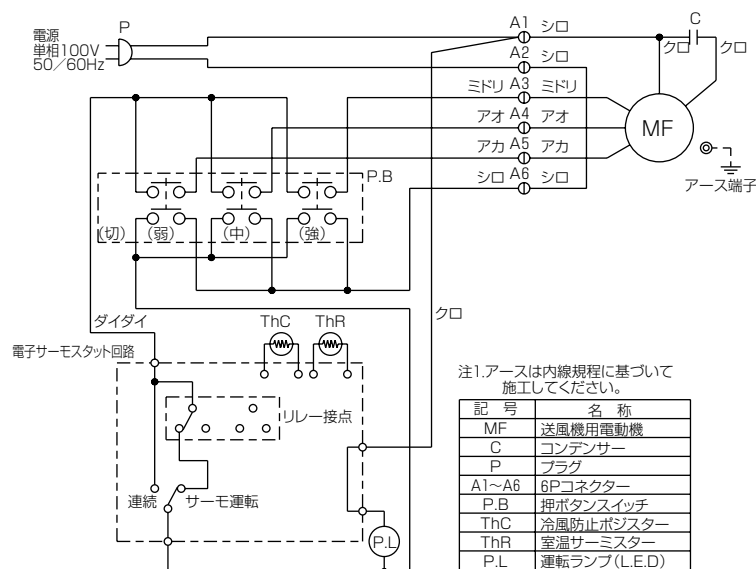
アースは内線規程に基づいて施工してください。施工が不完全な場合は、感電の原因になります。

配線

LV-WRE-M1,W1　シリーズ

注1.アースは内線規程に基づいて施工してください。

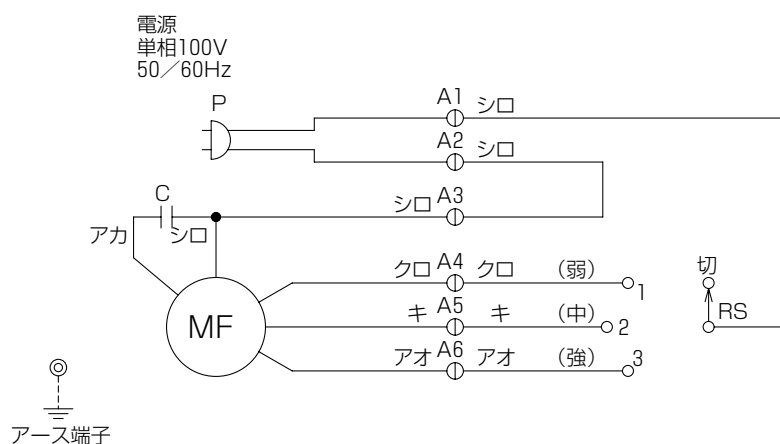
記　号	名　称
MF	送風機用電動機
C	コンデンサー
P	プラグ
A1~A6	6Pコネクター
B1,B3,B5	6Pコネクター（電動三方弁用）
P.B	押ボタンスイッチ
P.L	運転ランプ（L.E.D）

●コンセントは専用のものを使用してください。

記　号	名　称
MF	送風機用電動機
C	コンデンサー
P	プラグ
A1～A6	6Pコネクター
P.B	押ボタンスイッチ
ThC	冷風防止ポジスター
ThR	室温サーミスター
P.L	運転ランプ(L.E.D)

●コンセントは専用のものを使用してください。

VW-WE2(-W) シリーズ

注1.アースは内線規程に基づいて施工してください。

記　号	名　称
MF	送風機用電動機
C	コンデンサー
P	プラグ
A1～A6	6Pコネクター
RS	ロータリースイッチ

●コンセントは専用のものを使用してください。

使用水質・循環水量のご注意

・ユニットに流れる循環水の水質および水量は下記に従ってください。
　使用水質：日本冷凍空調工業会基準「冷凍空調機器用水質ガイドライン」（JRA-GL-02 ）によってください。

・ユニットへの供給水は、空気（酸素）が連続的に供給されないよう密閉回路もしくはそれに準じたシステムとしてください。井水の垂れ流しもしくは開放システムなどで配管内に溶存酸素が継続的に供給されると配管腐食による水漏れの原因となります。

4. 運転の仕方

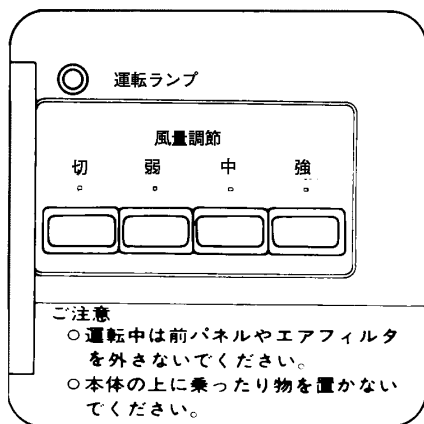
運転を始める前に

⚠警 告

お使いになる前に電源回路をご確認ください。内容は1.項「安全のために必ず守ること」をご参照ください。

運転・停止

LV-WRE-M1,W1 シリーズ

操作部

●風量調節

・風量調節ボタンでお望みの風量を選んでください。

風量調節

VW-WRE-M1,W1 シリーズ

●室温調節

室温調節器（ルームサーモ）の働きにより室温を一定に保ちます。

・お部屋の温度を高くする場合

・連続運転をする場合

・お部屋の温度を低くする場合

・室温の目安

＜連続＞…室温に関係なく連続暖房
＜7＞ …約32℃
＜4＞ …約25℃
＜1＞ …約15℃

＜1＞～＜7＞の間は、どの位置でもセットできます。室温は据付位置や家屋の構造によって異なることがあります。

ご注意

連続運転の場合はルームサーモ、冷風防止サーモは作動しません。

●自動運転の仕方

・準備

電源プラグはコンセントに差込み、室温調節つまみは〈1〉～〈7〉の間に、風量調節ボタンは〈強〉〈中〉〈弱〉のいずれかに合わせて切換えておいてください。

冷風防止サーモについて

暖房運転時、循環水温度が30～35℃以上にならないと送風を開始しない冷風防止サーモを内蔵しています。このため、熱源機の運転開始直後などは送風を開始しないことがあります。

・運転

循環水温度が30～35℃以上になると、風量調節ボタンで選ばれた風量でファンが送風を開始します。
ルームサーモの働きにより下のようにファンの運転を調節して室温を保ちます。
（また循環水温度が25～30℃以下になると、冷風防止サーモが作動し、ファンは自動的に止まり送風を停止します。）

風量調節ボタン	
弱、中、強	ファンを弱、中、強⇔停止

●風向調節

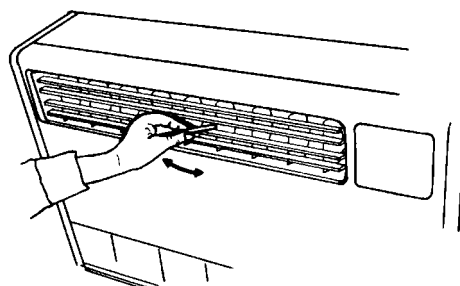
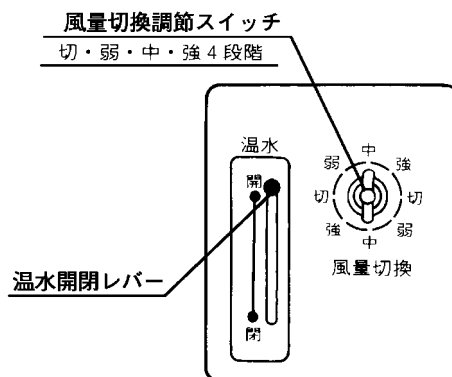
・**上下方向**　図のようにして横ルーバーの角度を変えます。冷房の場合は上向きに、暖房の場合は下向きにしていただくと部屋の温度分布がよくなり、より一層冷暖房の効果が上がります。

・**左右方向**　図のようにして縦ルーバーを調節してください。棒状のものを使用して調節する場合は、必要以上に奥に挿入しないでください（約10cmまで）。
機器を破損するおそれがあります。また、先の鋭利なもののご使用もおやめください。

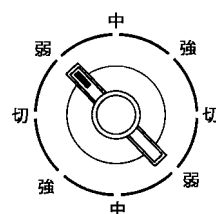
VW-WE2(-W) シリーズ

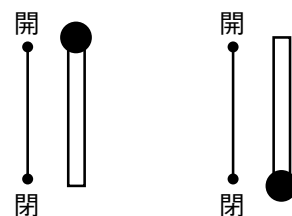
操作部

風量切換調節スイッチ
切・弱・中・強４段階

温水
開
閉
中
弱
強
切
切
強
弱
中
風量切換

温水開閉レバー

●風量調節

- 風量切換ツマミをお望みの風量の位置に合わせてください。
- 運転始めは「強」にすると部屋が速く暖まります。

●温水開閉

- 図のようにして温水開閉レバーを操作してください。
- 温水開閉レバーを“開”側へ上げますと熱交換器へ温水が通水されます。
- 温水開閉レバーを“閉”側へ下げますと熱交換器への通水が停止されます。この場合、運転停止時における自然放熱ロスを防ぐことができます。
- レバーの開閉操作はゆっくり行ってください。

上手なご使用の仕方

吹出口・吸込口の近辺に物を置かない。

吹出口、吸込口の近くに物を置きますと、風の流れが悪くなり能力が低下することがあります。

冷房時、熱の侵入を少なく。

冷房時、直射日光の当たる窓にはカーテンを引くなどして熱の侵入、すきま風を防いでください。
また、出入口、窓などを開けたままにしないでください。運転効率が悪くなります。

熱交換器のエア抜きをしてください。

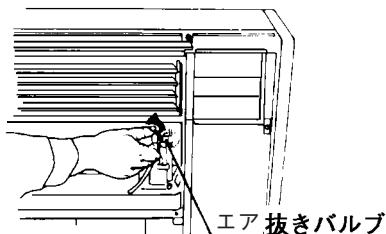
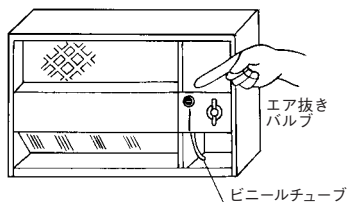
熱交換器内、配管内にエアが残っていますと能力低下の原因になります。
シーズン始めと使用中「シャラ、シャラ」と音がしてきたらエアを抜いてください。

●エアの抜き方

前パネルを外して（P5,6パネルの外し方参照）エア抜きバルブを左に回し、空気が出なくなったら右に回して閉めてください。

●ご注意

エア抜き中、エア抜きバルブについているビニールチューブより水が飛び出すおそれがありますので、ビニールチューブは必ずドレンパン内にあることを確認してエア抜きを行ってください。(LV-WREのみ)
注）VWはドレンパンがありませんので別途容器等で受けてください。
また、エア抜き後は水漏れの無いように確実にエア抜きバルブを閉めてください。

LV-WRE-M1,W1
VW-WRE-M1,W1　シリーズの場合

VW-WE2(-W)　シリーズの場合

正面よりマイナスドライバーでエア抜きバルブを開け水が出てきたら閉めます。閉めた後水が出ないことを確認してください。

ときどき換気を。

長時間締め切った部屋では空気が汚れますので、時々換気が必要です。ガス器具といっしょに使う場合は、特に注意してください。

フィルターの清掃はこまめに。

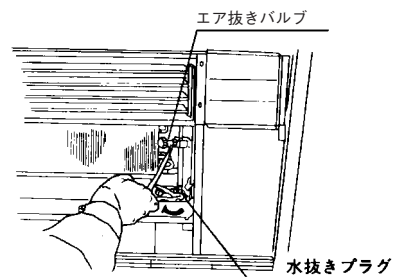
フィルターの目詰まりは風の流れを少なくし、運転効率を悪くします。さらに、そのまま放置しますと故障の原因になります。
特に冷暖房シーズンの始めには清掃してください。

熱交換器の水抜きをしてください。

冬期間中で熱源機を運転しないときは（夜間など）はポンプを運転しておいてください。
気温が0℃以下になると、循環水が凍結し熱交換器が破損することがあります。熱源機とポンプ共に止める場合は、熱交換器内の水を完全に抜いてください。
不凍液ご使用の場合は、機器を購入されたお店、もしくは工事店にご相談ください。

●水の抜き方

機内配管のバルブを確実に閉め、エア抜きバルブを左に回し、水抜きプラグを外して水を抜きます。水が出なくなったら元通りに閉めてください。

LV-WRE-M1,W1
VW-WRE-M1,W1　シリーズの場合

快適な室温に！

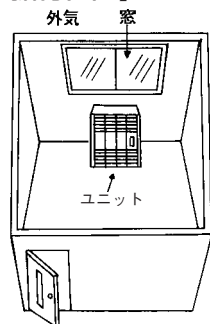
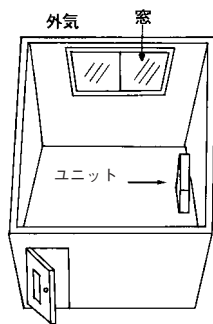
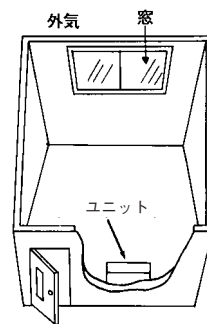
冷やしすぎ、暖めすぎに注意してください。
周囲の方が快適になるように調節してあげてください。
冷房時は26～28℃、暖房時は18～23℃が適温です。

熱交換器の目詰まりを点検してください。

熱交換器の目詰まりを定期的に点検してください。
熱交換効率が悪くなり、能力低下の原因になります。

適切な位置に据付けてください。

・据付位置の選定はユニットにより吹き出される温風が部屋全体に循環する場所か、外気に面している窓の下、または配管のしやすいところをお選びください。
その際部屋の出入口近くに据付けますと、出入りのとき温風が逃げますのでなるべく出入口より離れたところに据付けてください。

【適切な据付位置】

【暖房負荷を５％多く見積もる必要あり】

【暖房負荷を10％多く見積もる必要あり】

運転中､停止直後はファンモーターに触れない。

運転中および停止直後はファンモーターに触れないでください。モーター表面が高温になっていますので火傷するおそれがあります。

電源の配線工事は正しく！

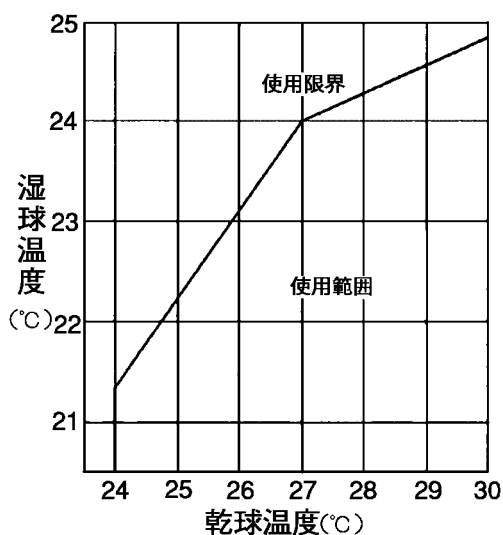
電源配線は、電流容量、規格品の配線にて工事を行ってください。漏電や発熱、火災の原因になります。

故障を防ぐためのお願い

フィルターを外したまま運転しないでください。

内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。

使用温度範囲を守ってください。

使用温度範囲から外れたところで使用しますと、重大な故障の原因になります。

また室内温度が０℃以下になる場合は循環水を止めないでください。熱交換器内の水が凍結し、破損、水漏れの原因になります。

冷房時の露付防止 (LV-WRE形のみ)

下記のような条件で使用された場合、露付きするおそれがありますのでご注意ください。

●窓を開けたまま冷房運転を行った場合
●冷水を通水したまま長時間ファンを止めておいた場合
●炊事場など特に湿度の高い場所でご使用の場合

このように露付きするおそれのある場所でご使用の場合は、必要に応じて手動三方弁、電動三方弁、敷皿のご使用をおすすめします。

凍結について

冬期暖房運転を中止された場合、部屋の温度が０℃以下になりますと熱交換器内の水が凍結し、熱交換器を破損することがありますので、暖房を停止された場合でも循環ポンプは運転し熱交換器内の水を循環しておいてください。
長時間運転を中止される場合は、熱交換器内および配管内の水を抜いてください。

特殊雰囲気中で使用しないでください。

機械油、塩分、湿気、粉塵の多い所、温泉地帯、硫化ガス・揮発性ガス・腐食性ガスなどが充満している所、高周波加工機の近くに設置すると故障の原因となります。

5. お手入れの仕方

⚠注 意

・掃除をするときは必ず運転を停止して、電源を切ってください。内部でファンが高速回転しており、ケガの原因になります。

・運転中および停止直後はファンモーターに触れないでください。
ファンモーター表面が高温になっていますので火傷をするおそれがあります。

・熱交換器のフィンに素手で触れないでください。
ケガの原因になります。

フィルターの清掃方法

本体には吸込空気のゴミを取るためのフィルターがあります。少なくとも月に2回以上清掃してください。

●清掃の仕方

水洗いまたは掃除機などで清掃してください。
洗った後は陰干しし、乾燥させてから元通りに取付けてください。

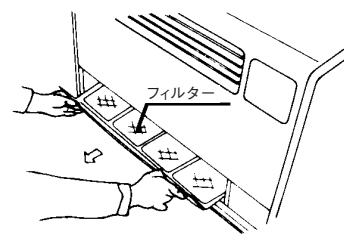
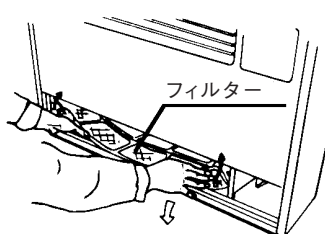
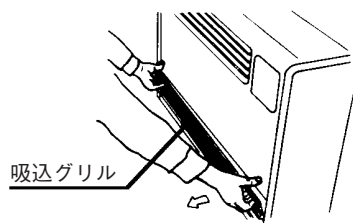
●ご注意

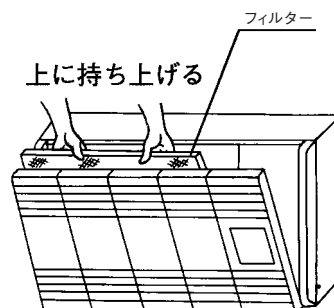
・フィルターを直接日光に当てたり火であぶって乾かさないでください。変形することがあります。
・熱いお湯（40℃以上）で洗うと変形することがあります。

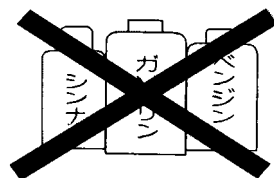
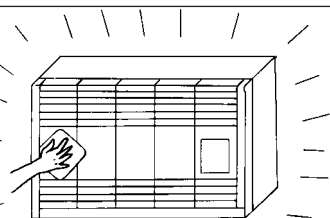
●フィルターの脱着方法

・LV-WRE-M1,W1・VW-WRE-M1,W1シリーズ

本体下部の吸込グリルをグリル上部に手をかけて開けてください。
（この場合、手は必ずグリル両端のフィルターを表示銘板上部内側のくぼみに両手をかけてください。他の部分に手をかけますとグリルが破損したり、グリルの角でケガをするおそれがあります。）
取付ける時は、逆の手順で行ってください。

送風機の下部に差し込んでありますフィルターの手前側を一度下に下げ、静かに手前に引き出してください。

・VW-WE2(-W)　シリーズ

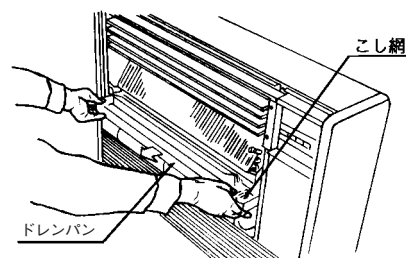
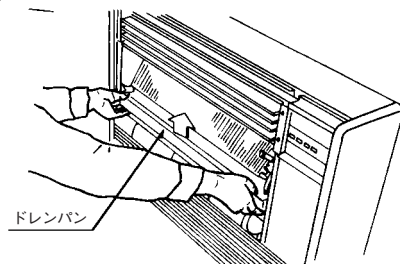
フィルターは前パネル吸込口の内側に取付けられています。
前パネルを手前に引いたのち、フィルターを引き出してください。
取付ける時は、逆の手順で行ってください。

ケーシング・ドレンパンの清掃方法

●**ケーシングの汚れ**は乾いた柔らかい布か中性洗剤洗剤の水に浸した布で拭いてください。シンナー・ベンジン等は使用しないでください。色があせたり、ツヤが無くなることがあります。

●**ドレンパン·こし網**は定期的に水洗いしてください。

●**ドレンパン·こし網の脱着方法**

前パネルを外して（P5,6ケーシングの外し方参照）ドレンパンの中に水が残っていないことを確認して、次の要領で取出してください。（水が残っている場合はこし網を外し、ドレンパンの左端を少し持ち上げて排水してください。）

ドレンパンの手前側両端を両手で持ち、少し上に上げます。そのまま静かに左右均等に引き出してください。

取付ける時は、逆の手順で行ってください。

【ご注意】

ドレンパンは樹脂製ですのでていねいに扱ってください。万一破損した場合は、アルコール系接着剤で補修できます。

6. サービスをお申しつけの前に

サービスをお申しつけの前に、次の点をお調べください。

状　況	原　　因	処　　置
全然運転しない	1．電源プラグが外れていませんか？	1．電源プラグをコンセントに入れてください。
冷え(暖まり)が悪いとき	1．フィルターが汚れていませんか？ 2．冷水または温水が止まっていませんか？ 3．熱交換器内に空気がたまっていませんか？ 4．冷水または温水の温度が不適当ではありませんか？ 5．吸込口や吹出口がふさがれていませんか？	1．フィルターを清掃してください。(P14参照) 2．機内配管のバルブを開けてください。 3．エア抜きを行ってください。(P12参照) 4．熱源機の運転状態を確かめてください。 5．ふさいでいる障害物を取除いてください。
水が漏れる (LV-WREのみ)	1．ドレンホースが外れていませんか？ 2．ドレンパンは正確な位置にありますか？ 3．こし網にゴミが詰まっていませんか？	1．ドレンホースをドレン排水管に確実に差し込んでください。 2．ドレンパンを正確に置いてください。(P15参照) 3．こし網を清掃してください。(P15参照)

次の場合は故障ではありません。

騒音が仕様値よりも高い

室内での運転音は反響などにより、無響音室で測定した仕様値よりも、一般的に次に示します値程度高くなります。

	吸音効果の高い部屋	普通の部屋	吸音効果の低い部屋
一　般　例	放送スタジオ、音楽室等	応接室、ホテルロビー等	オフィス、ビジネスホテル等
騒音アップ値	3～7ホン	6～10ホン	9～13ホン

匂いがする

本体から吹出す風が匂うことがあります。これは室内の空気中に含まれた煙草の煙、化粧品、壁や家具などの匂いが本体に付着し吹き出されるためです。

主要部品の保守・点検要領

●対象となる主要部品につき保守・点検を行い異常を確認した場合は、お買い上げの販売店等に交換を依頼してください。
●ご不明な点や修理に関するご相談はお客様相談窓口（別添）にお問い合わせください。
●下表の保全、交換周期は部品の保証期間を示すものではありません。使用環境により大きく左右されます。
　以下条件に適合するときには「保全周期」および「交換周期」の短縮を考慮する必要があります。
　①温度・湿度の高い場所、あるいはその変化の激しい場所でご使用される場合。
　②電源変動（電圧、周波数、波形歪み等）が大きい場所でご使用される場合。
　③振動、衝撃が多い場所に設置されご使用される場合。
　④塵埃、塩分、亜硫酸ガスおよび硫化水素などの有毒ガス・オイルミスト等良くない雰囲気でご使用される場合。
　⑤頻繁な発停のある場合、運転時間が長い場合。（24時間空調等）

〈点検･保全部品〉

部品名	点検内容	点検周期	保全周期 【交換または修理】
熱交換器	･ゴミによる目詰まり、損傷確認 ･（循環）水漏れ確認	1年	5年
ファンモーター	･異常音等の聴覚確認 ･絶縁抵抗の測定		20,000時間
ベアリング	･異常音の確認		15,000時間
ファン･ケーシング	･振れ、バランスの目視確認 ･ゴミの付着、外観確認		10年
ドレンパン	･ゴミ詰まり、ドレン水の流れ確認 ･塗装等内面のコーティングの剥れ、浮上がり確認		8年
防振ゴム	･劣化、硬化の確認		10年
電動弁･操作弁類	･動作確認、絶縁性能 ･腐食、異常音確認		20,000時間
制御機器 基板	･動作、外観の目視確認		25,000時間
リモコンスイッチ	･操作による制御性確認		25,000時間
センサー （サーミスター等）	･入出力の確認		5年
化粧パネル	･汚れ、傷の確認		8年
フィルター	･目視による汚れ、破れ確認	2週間	5年

上表は以下のご使用条件の場合です。
①頻繁な発停のない、通常のご使用状態であること。
　（機種によって異なりますが、通常のご使用における発停の回数は、6回/時間以下を目安としています。）
②製品の運転時間は、10時間/日、2,500時間/年と仮定しています。
・補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後9年間となっています。
　補修用部品を調達したうえ修理によって性能を維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理を実施いたします。

■ご不明な点や修理に関するご相談はお客様相談窓口（別添）にお問い合わせください。

■アフターサービスご契約のおすすめ

●当社指定のサービス会社と保守契約（有料）いただければ、専門のサービスマンがお客様に代わって保守点検を致します。
　万一の故障時も早期に発見し適切な処置を行うことができます。

三菱電機冷熱応用システム株式会社

〒640-8686 和歌山市手平6-5-66 三菱電機株式会社 冷熱システム製作所内(073)436-6413

WT05652X02

MITSUBISHI 三菱電機冷熱応用システム株式会社 修理窓口・ご相談窓口のご案内（冷熱品B）

修理・取扱いのご相談は
お買上げの販売店・施工者・設備業者へ

お買上げ先へご依頼できない場合は

修理のお問合わせは → **修理窓口 へ**

その他のお問合わせは → **ご相談窓口 へ**

■お問合わせ窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

三菱電機冷熱応用システム株式会社は、お客様からご提供いただきました個人情報は、下記のとおり、お取り扱いします。

1.お問合わせ（ご依頼）いただいた修理・保守・工事および製品のお取り扱いに関連してお客様よりご提供いただいた個人情報は、本目的並びに製品品質・サービス品質の改善・製品情報のお知らせに利用します。
2.上記利用目的のために、お問合わせ（ご依頼）内容の記録を残すことがあります。
3.あらかじめお客様からご了解をいただいている場合および下記の場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を提供・開示する事はありません。
　①上記利用目的のために、弊社グループ会社・協力会社などに業務委託する場合。
　②法令等の定める規定に基づく場合。
4.個人情報に関するご相談は、お問合わせをいただきました窓口にご連絡ください。

修理窓口（三菱電機ビルテクノサービス株式会社） 電話受付:365日・24時間

地区	連絡先
関越 冷熱サービスコールセンター（埼玉県、群馬県、栃木県 長野県、新潟県）	電話 (048)650-1194 FAX (048)650-1278 さいたま市大宮区仲町1-110（游辰館7階）
東京 冷熱サービスコールセンター（東京都（町田市を除く） 山梨県）	電話 (03)3803-1194 FAX (03)3803-5290 東京都荒川区荒川7-19-1（システムプラザB館）
横浜 冷熱サービスコールセンター（神奈川県、東京都町田市 静岡県東部（富士川以東））	電話 (045)681-1194 FAX (045)311-8204 横浜市西区みなとみらい2-2-1-1（ランドマークタワー内）
中部 冷熱サービスコールセンター（愛知県、岐阜県、三重県 静岡県西部（富士川以西））	電話 (052)243-1194 FAX (052)243-1193 名古屋市中区栄3-18-1（ナディアパークビジネスセンタービル）
北陸 冷熱サービスコールセンター（石川県、富山県、福井県）	電話 (076)224-1194 FAX (076)233-6205 金沢市広岡3-1-1（金沢パークビル）
関西 冷熱サービスコールセンター（大阪府、京都府、滋賀県 奈良県、和歌山県、兵庫県）	電話 (06)6391-8531 FAX (06)6391-8545 大阪市淀川区三国本町1-3-4
中国・四国 冷熱サービスコールセンター（広島県、岡山県、鳥取県 島根県、山口県 香川県、愛媛県、高知県 徳島県）	電話 (082)291-1194 FAX (082)503-2417 広島市西区南観音8-14-21（中国資材センター内）

北海道地区

道央地区 北海道冷熱サービスコールセンター 電話 (011)862-1180 FAX(011)862-9497 札幌市白石区本通20丁目南4-2	旭　川　(0166)25-1800 旭川市4条通9-1703（旭川北洋ビル6階） 函　館　(0138)51-8699 函館市五稜郭町1-14（住友生命五稜郭ビル6階） 帯　広　(0155)24-1669 帯広市西3条9-1（帯広経済センタービル4階）

東北地区

宮城県・山形県 東北冷熱サービスコールセンター 電話 (022)224-1330 FAX(022)224-1343 仙台市青葉区大町1-1-30（新仙台ビル3階） 青　森　(017)722-7718 青森市長島2-10-4（ヤマウビル5階） 八　戸　(0178)45-7289 八戸市八日町36（第一ビル5階） 弘　前　(0172)36-3233 弘前市駅前2-2-2（弘前第一生命ビル）	盛　岡　(019)653-3732 盛岡市菜園1-3-6（農林会館6階） 秋　田　(018)836-7880 秋田市中通2-3-8（アトリオンビル8階） 郡　山　(024)922-8959 郡山市駅前2-11-1（ビッグアイ19階） いわき　(0246)24-2120 いわき市平字作町1-4-7（エムズパレス305）

東関東地区

千葉県、茨城県 東関東冷熱サービスコールセンター 電話 (047)431-1194 FAX(043)224-8290 千葉市中央区栄町36-10（YS千葉中央ビル内）	

九州地区

福岡県、佐賀県 九州冷熱サービスコールセンター 電話 (092)471-1194 FAX(092)474-8298 福岡市博多区豊1-9-71（九州資材センター内） 北九州　(093)551-2937 北九州市小倉北区浅野3-8-1（アジア太平洋インポートマート内） 久留米　(0942)34-6730 久留米市日吉町16-18（久留米センタービル内） 長　崎　(095)826-8301 長崎市万才町3-5（朝日生命長崎ビル7階）	佐世保　(0956)24-7718 佐世保市三浦町2-8（明治安田生命佐世保ビル6階） 熊　本　(096)356-6231 熊本市花畑町9-24（住友生命熊本ビル2階） 大　分　(097)537-7191 大分市中央町1-1-5（大分第一生命ビル3階） 宮　崎　(0985)23-3883 宮崎市高千穂通2-5-32（日本生命宮崎駅前ビル9階） 鹿児島　(099)226-1912 鹿児島市東千石町1-38（鹿児島商工会議所ビル） 沖　縄　(098)866-1175 那覇市久茂地1-3-1（久茂地セントラルビル）

ご相談窓口（三菱電機株式会社）

■三菱電機空調ワンコールシステム

全国どこからでもおかけいただける（フリーコール） **0120-9-24365**
空調　24時間365日

■技術相談　（平日 9:00～19:00、土・日・祝 9:00～17:00）
■修理依頼　（365日・24時間受付）
■部品注文　（365日・24時間受付）

三菱電機冷熱製品に関する【仕様・性能・施工・試運転・取扱い・メンテナンス】などの技術内容全般についてのご相談は

■三菱電機冷熱相談センター

■電話　平日 9:00～19:00、土・日・祝 9:00～17:00
全国どこからでもおかけいただける（フリーボイス） **0037-80-2224**
通常電話＜携帯電話・PHS・IP電話対応＞　(073)427-2224

■FAX　(365日・24時間受付)
フリーボイス………0037-80-2229
通常FAX …………(073)428-2229

●所在地、電話番号などについては変更になることがありますので、あらかじめご了承願います。

MITSUBISHI

修理窓口（三菱電機システムサービス株式会社）　電話受付:365日・24時間

北海道・東北地区

北海道全域・宮城県

東日本フロントセンター
フリーダイヤル電話番号　0120-56-8634
携帯電話・PHS・IP電話の場合　(03)3424-1111
FAX　(03)3424-1115
インターネット　www.melsc.co.jp
東京都世田谷区池尻3-10-3

青森
(017)773-8381
青森市大字野木字野尻37-184

八戸
(0178)28-8544
八戸市大字長苗代字下亀子谷地6-8

盛岡
(019)637-7454
盛岡市羽場13地割30-11

水沢
(0197)25-4511
奥州市水沢区卸町2-3

秋田
(018)865-4471
秋田市八橋三和町19-36

横手
(0182)32-1785
横手市卸町3-2

大館
(0186)42-2781
大館市餅田2-5-44

山形
(023)624-0018
山形市大野目2-1-21

鶴岡
(0235)24-6161
鶴岡市上畑町5-4

郡山
(024)959-6543
郡山市喜久田町卸1-76-1

会津
(0242)27-4426
会津若松市天神町25-39

原町
(0244)24-2842
南相馬市原町区桜井町1-173

いわき
(0246)26-1822
いわき市小島町1丁目2-2

九州地区

福岡県、佐賀県

東日本フロントセンター
フリーダイヤル電話番号　0120-56-8634
携帯電話・PHS・IP電話の場合　(03)3424-1111
FAX　(03)3424-1115
インターネット　www.melsc.co.jp
東京都世田谷区池尻3-10-3

長崎
(095)834-1116
長崎市丸尾町4-4

佐世保
(0956)30-7740
佐世保市木原町155-1

熊本
(096)380-0211
熊本市石原1-10-35

八代
(0965)33-5173
八代市緑町13-1

大分
(097)558-8803
大分市向原西1-8-1

宮崎
(0985)56-4900
宮崎市大字赤江字飛江田150-1

延岡
(0982)21-3540
延岡市惣領町25-5

鹿児島
(099)260-2421
鹿児島市卸本町7-17

沖縄
(098)898-3333
宜野湾市大山7-12-1

関東・甲信越地区

東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、埼玉県
栃木県、群馬県
山梨県、長野県（飯田地区除く）、新潟県
静岡県

東日本フロントセンター
フリーダイヤル電話番号　0120-56-8634
携帯電話・PHS・IP電話の場合　(03)3424-1111
FAX　(03)3424-1115
インターネット　www.melsc.co.jp
東京都世田谷区池尻3-10-3

関西・東海・北陸　中国・四国　地区

大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県
京都府、滋賀県
愛知県、三重県、岐阜県
長野県（飯田地区）
石川県、富山県、福井県
広島県、山口県、島根県、鳥取県、岡山県
香川県、徳島県、高知県、愛媛県

西日本フロントセンター
フリーダイヤル電話番号　0120-56-8634
携帯電話・PHS・IP電話の場合　(06)6454-3901
FAX　(06)6454-3900
インターネット　www.melsc.co.jp
大阪市北区大淀中1-4-13

ご相談窓口（三菱電機株式会社）

■三菱電機空調ワンコールシステム

全国どこからでもおかけいただける（フリーコール）　**0120-9-24365**
空調　24時間365日

■技術相談　（平日 9:00〜19:00、土・日・祝 9:00〜17:00）
■修理依頼　（365日・24時間受付）
■部品注文　（365日・24時間受付）

三菱電機冷熱製品に関する【仕様・性能・施工・試運転・取扱い・メンテナンス】などの技術内容全般についてのご相談は

■三菱電機冷熱相談センター

■電話　平日 9:00〜19:00、土・日・祝 9:00〜17:00
全国どこからでもおかけいただける（フリーボイス）　**0037-80-2224**
通常電話<携帯電話・PHS・IP電話対応>　(073)427-2224

■FAX　(365日・24時間受付)
フリーボイス………0037-80-2229
通常FAX …………(073)428-2229

●所在地、電話番号などについては変更になることがありますので、あらかじめご了承願います。

三菱電機冷熱応用システム株式会社

〒640-8686 和歌山市手平6-5-66 三菱電機株式会社 冷熱システム製作所内(073)436-6413

WT05641X01